

第63回委員会を傍聴させていただきました。

河川管理者から、いよいよ具体的な事業の必要性和計画内容が説明される段階に入り、河川の整備計画策定においては非常に重要な段階となりました。

今回の河川管理者からの説明の中で、特に重要な事業と感ずるのは大戸川ダムの必要性です。

その理由は、流下能力がまだまだ小さく、また3川合流点からの背水現象が生じる宇治川は、琵琶湖流域を除いても流域面積が約500Km²もあり、流域内で洪水調節ができる貯水施設は天ヶ瀬ダムのみであります。更にその洪水調節は予備放流操作を伴うもので、非常に窮屈な対応が必要となっており、過去の洪水処理においても大変な苦勞の中で運用されています。

さらに、琵琶湖からの放流量処理を考えると、淀川水系の中で宇治川は河川管理が最も難しい河川であると考えます。

これらの課題解消のためにも、宇治川流域に計画している大戸川ダムは是非とも必要と考えます。

しかし流域委員会での説明では、宇治川及び天ヶ瀬ダムの課題と大戸川ダムの必要性が明確に理解できる説明ではなかった様に感ずます。

もっと委員の専門外の方々にも理解しやすくするために、現象面を基本にした内容でその必要性の説明をしていただきたい。